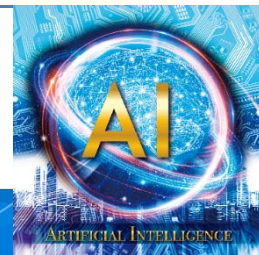




グローバルA Iファンド グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）



第3期決算および運用の振り返りについて

平素より、「グローバルA Iファンド」および「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」（以下、当ファンド）をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは2019年9月25日に第3期決算を迎えましたので、設定から約3年の振り返り等と併せてご報告いたします。

※以下、「グローバルA Iファンド」を（為替ヘッジなし）、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」を（為替ヘッジあり）ということがあります。

分配実績（1万口当たり、税引前）

第3期決算（2019年9月25日）の分配金額は、基準価額水準等を勘案し、（為替ヘッジなし）、（為替ヘッジあり）ともに分配を見送ることいたしました。決算後の基準価額は（為替ヘッジなし）15,081円、（為替ヘッジあり）13,057円となりました。

決算期		2017/9/25	2018/9/25	2019/9/25	設定来累計 (2019/9/25まで)
		第1期	第2期	第3期	
(為替ヘッジなし)	分配金 (対前期末基準価額比率)	100円 (1.0%)	150円 (1.1%)	0円 (0.0%)	250円 (2.5%)
	騰落率 (税引前分配金再投資ベース)	38.9%	17.0%	-5.7%	53.3%
(為替ヘッジあり)	分配金 (対前期末基準価額比率)	100円 (1.0%)	100円 (0.8%)	0円 (0.0%)	200円 (2.0%)
	騰落率 (税引前分配金再投資ベース)	20.1%	14.3%	-3.4%	32.6%

(注1) 「対前期末基準価額比率」は、各期の分配金（税引前）の前期末基準価額（分配金お支払い後）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。第1期と設定来累計の欄は、それぞれの分配金累計（税引前）の設定時10,000円に対する比率です。

(注2) 騰落率は税引前分配金再投資基準価額を基に算出したものであり、実際の投資家利回りとは異なります。また騰落率は設定来累計を除き、期中騰落率を記載しています。

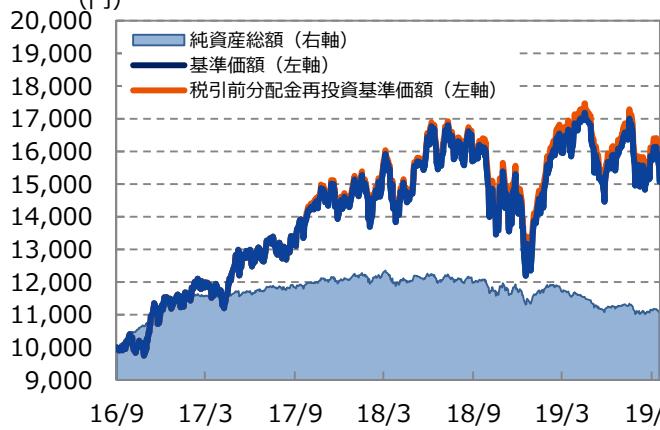
分配方針

- 分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

基準価額と純資産総額の推移

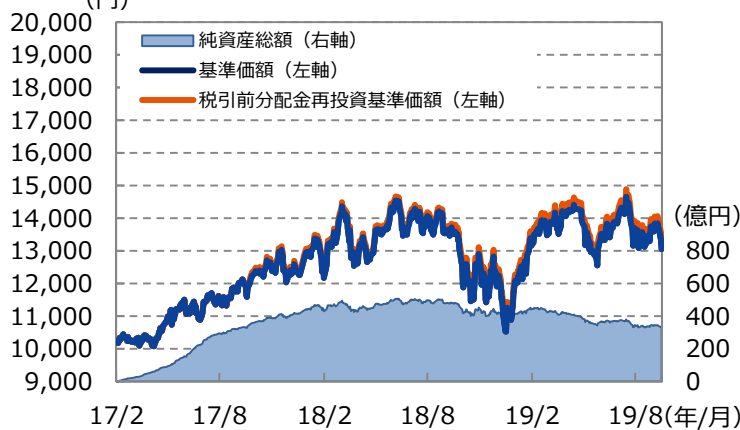
（為替ヘッジなし）

（円）（2016年9月9日（設定日）～2019年9月25日）



（為替ヘッジあり）

（円）（2017年2月10日（設定日）～2019年9月25日）



(注1) 基準価額、税引前分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは7ページをご覧ください。

ファンドマネージャーによる運用の振り返り

以下、当ファンドの実質的な運用会社であるアリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC（以下、アリアンツGI）のコメントを基に設定後約3年間の運用の振り返り等をご紹介します。



セバスチャン・トーマス氏
マザーファンドの運用を実質的に担当する
アリアンツGIのファンドマネージャー

- ◆当ファンドの運用を開始して約3年が経ちましたが、AIによる社会への影響は未だ成長段階にあり、今後も多くの投資機会が見込まれ、当ファンドも拡大を続けることができると考えています。
- ◆AIの活用により、例えばがん細胞の正確な識別、車の衝突回避、家畜の健康状態の改善等、より良い消費者体験を生み出すために、問題解決への取り組みが続けられています。
- ◆私たちは、まだAIができることの一部しか見ておらず、イノベーションはさらに加速しています。AIが私たちの生活に浸透してくるにつれて、AIによるインパクトは、今後もさらに大きくなっていくと考えています。

AIによる技術革新

- AIを通して、技術的な変革を効果的に成し遂げることが今後10年における株主価値を創造すると考えています。
- 今後数年間、最も顕著な技術革新は3つの分野（AIインフラ、AI開発企業、AI活用企業）でみられると考えています。当ファンドの運用を開始した当時は、ポートフォリオにおけるAI活用企業の割合は約17%でしたが、現在では約41%まで増加しています。
- 3つの分野の割合は変動する可能性がありますが、今後数年間でAIがより多くの産業に変革をもたらすと予想されることから、AI活用企業の割合が増加していくとともに、良好なバランスおよび分散を維持していきたいと考えています。

<AIによる技術革新>

AIインフラ

- これまで、機械学習の向上のため、新しい基本設計や設計思想の初期段階の採用が進められてきました。
- 次の段階は、データセンターから数十億ものデバイスに展開されるAI推論（トレーニングされた機械が自ら推測を行うこと）です。

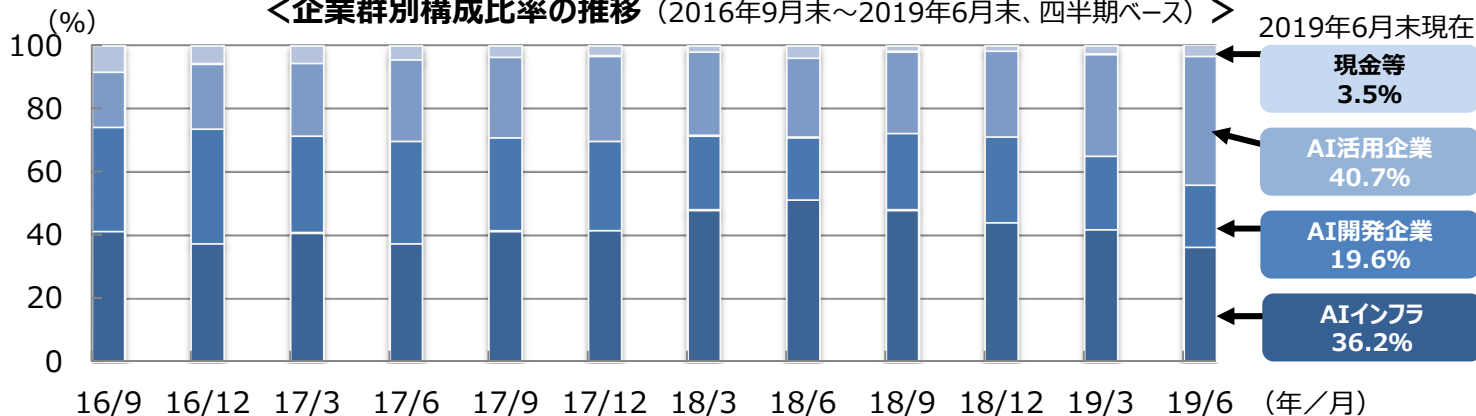
AI開発企業

- AIアプリケーションは、より高いレベルの自動化や、より迅速な意思決定、大幅なコスト削減等を促進します。
- AIが身近にあるほぼすべてのアプリケーションの一部となり、過去のIT革命よりもさらに大きな市場を生み出すと考えています。

AI活用企業

- 自動車、生活必需品、ヘルスケア、金融等の各セクターにおいて、多くの企業はすでにAIによる初期段階のメリットを享受しています。
- 今後数年間でより多くの業界の幅広い業務においてAI関連のプロジェクトが展開されるとみえています。

<企業群別構成比率の推移（2016年9月末～2019年6月末、四半期ベース）>



(注) 構成比率はグローバルAIエクイティ・マザーファンドの純資産総額を100%として計算しています。ただし、四捨五入の関係上、合計が100%とならない場合があります。

(出所) アリアンツGIのデータを基に委託会社作成

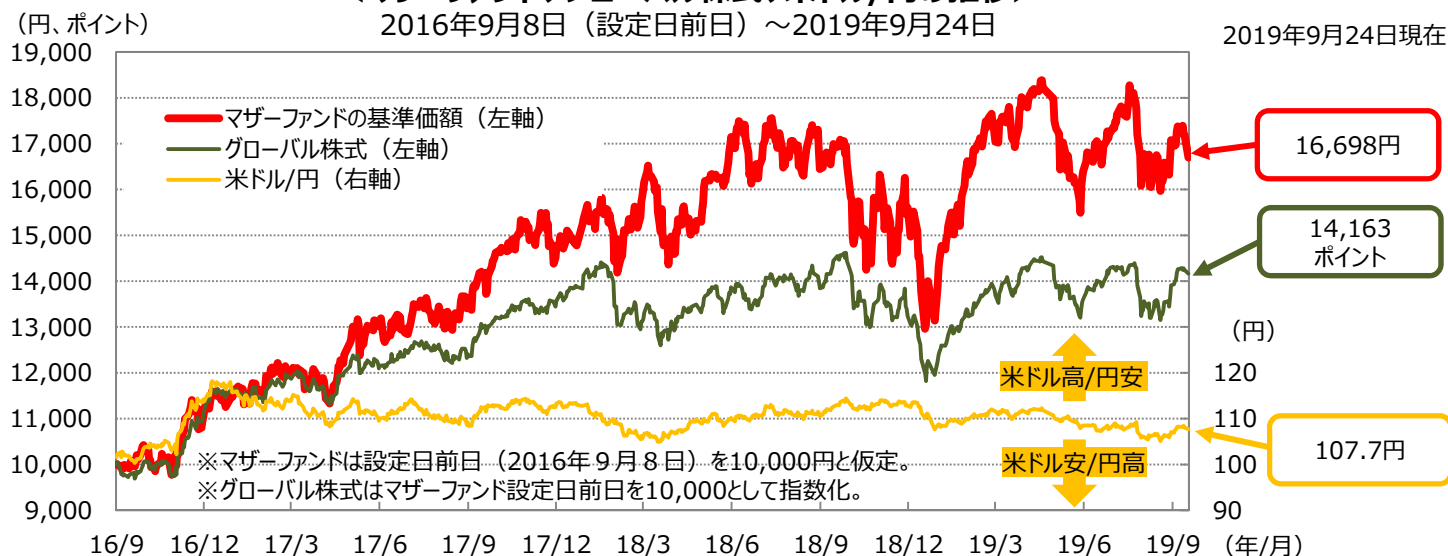
※ 上記は過去の実績、当資料作成時点の市場見通しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

グローバル株式を上回るパフォーマンス

<マザーファンドの推移>

- マザーファンド設定時より2017年までは堅調な推移となりました。2018年以降は、米国金利の上昇懸念や、米中貿易摩擦等により変動率が高まりました。
- 第2期決算（2018年9月25日）以降も、変動率が高い動きとなりましたが、グローバル株式を上回るパフォーマンスとなっています。

<マザーファンド、グローバル株式、米ドル/円の推移>



(注1) マザーファンドの基準価額は1万口当たり、信託報酬はかかりません。マザーファンドは為替ヘッジをしていません。

(注2) グローバル株式はMSCI AC ワールド インデックス（配当込み、円ベース）。同インデックスは、マザーファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

(注3) グローバル株式の円換算値の指数化にあたっては、マザーファンドの基準価額算出に沿って、外貨建て資産は前日（休日の場合は、その直近の最終取引日）の価格を、為替レートは当日のレートを使用しています。

(出所) FactSetのデータを基に委託会社作成

市場見通しと今後の運用方針

以下、当ファンドの実質的な運用会社であるアリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLCのコメントを基にご報告致します。

<市場見通し>

- 世界経済の成長鈍化への懸念から、多くの中央銀行や政府は景気後退を防ぐための刺激策を実施しています。ほとんどの地域では、追加の財政刺激策を検討するとともに、金融緩和サイクルに入ろうとしています。
- 中国の経済状況は、最近安定化の兆しをみせています。米中貿易摩擦が不確実性を増したことは事実ですが、協議の再開および進展は、2020年に向けての緊張緩和や解決に繋がる可能性があり、ポジティブに受け止められるとみています。
- 中央銀行が追加のサポートを実施する準備を整えている一方、進行中の貿易リスクによって株式市場は短期的には高いボラティリティが継続する可能性があります。

<今後の運用方針>

- 長期的にみると、イノベーションが価値創造の原動力であると考えており、現在はAIとデジタル・トランスフォーメーションを中心としたテクノロジーのパラダイムシフトの未だ初期段階にあると考えています。
- 一部の銘柄では米中貿易摩擦によってバリュエーションが魅力的なレベルまで下がってきたものもあります。実際、多くの半導体銘柄は、国債の利回りを上回る配当利回りとなっています。引き続き個別銘柄レベルでの上昇の可能性と下落リスクを見極めながら、この市場のボラティリティを活用し、リターンを生み出していきたいと考えています。
- 特にボラティリティが高く、リターンが大きく分かれる現在の投資環境において、投資機会を捉えるためには、銘柄選択が非常に重要な鍵となると考えています。AIを発展させ活用する企業の見通しは引き続き好調に推移しており、今後も魅力的なリターンを享受することができると考えています。

※ 上記は過去の実績、当資料作成時点の市場見通しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは7ページをご覧ください。

ファンドの特色

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のようにいうことがあります。

グローバルAIファンド : (為替ヘッジなし)

グローバルAIファンド (為替ヘッジあり) : (為替ヘッジあり)

1. グローバルAIエクイティ・マザーファンド (以下「マザーファンド」といいます。) への投資を通じて、世界的上場株式*の中から、AI (人工知能) の進化、応用により高い成長が期待される企業の株式に投資を行います。
 - AIテクノロジーの開発のほか、AIの開発に必要なコンピューティング技術、AIを活用したサービス、ソフトウェア・アプリケーションの提供を行う企業や、AIを活用したサービスを駆使して自社ビジネスを成長させる企業等に投資を行います。
 - AI (人工知能) とは、Artificial Intelligenceの略です。人間のように自ら学び発達していくコンピューター・プログラムをさします。

* 上場株式には、不動産投資信託 (REIT) も含みます。
2. AIに関連する企業の投資戦略に強みをもつ、アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLCが実質的な運用を行います。
 - マザーファンドの運用にあたっては、アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC (本社: 米国カリフォルニア州サンフランシスコ) に運用の指図に関する権限の一部を委託します。同社は、ドイツのアリアンツ・グループ傘下の運用会社です。
3. 対円での為替ヘッジの有無により、(為替ヘッジなし) と (為替ヘッジあり) の2つのファンドからご選択いただけます。
 - (為替ヘッジなし)

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - (為替ヘッジあり)

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。

※一部の通貨については、他の通貨を用いた為替ヘッジを行う場合があります。直物為替先渡取引 (NDF) を利用することもあります。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドは、主に内外の株式を投資対象としています (マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。)。ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、ファンドは**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

（為替ヘッジあり）については、実質外貨建資産に対し原則として対円で為替ヘッジを行うため、為替の変動による影響は限定的と考えられます（ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。）。なお、一部の実質外貨建資産の通貨に対し他の通貨による為替ヘッジを行う場合があります。その際、通貨間の値動きが異なる場合には十分な為替ヘッジの効果が得られないことや円と他の通貨との為替変動の影響を受けることがあります。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- （為替ヘッジあり）為替取引を行う場合、直物為替先渡取引（NDF）を利用する場合があります。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待等の影響により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。したがって、実際の為替市場や金利市場の動向から想定される動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。また、当該取引において、取引先リスク（取引の相手方の倒産等により取引が実行されないこと）が生じる可能性があります。
- ファンドが活用する店頭デリバティブ取引（NDF）を行うために担保または証拠金として現金等の差入れがさらに必要となる場合があります。その場合、ファンドは追加的に現金等を保有するため、ファンドが実質的な投資対象とする資産等の組入比率が低下することがあります。その結果として、高位に組み入れた場合に比べて期待される投資効果が得られず、運用成果が劣後する可能性があります。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

お申込みメモ

購入単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

購入代金

販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

換金単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

信託期間

(為替ヘッジなし)

2016年9月9日から2026年9月25日まで

(為替ヘッジあり)

2017年2月10日から2026年9月25日まで

決算日

毎年9月25日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。

ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

配当控除の適用はありません。

※上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

お申込不可日

ニューヨークの取引所またはニューヨークの銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、購入、換金の申込みを受け付けません。

スイッチング

販売会社によっては、（為替ヘッジなし）および（為替ヘッジあり）の間でスイッチングを取り扱う場合があります。また、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.24%* (税抜き3.00%) を上限**として、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を乗じた額です。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。
* 消費税率10%となった場合は3.3%となります。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.89%* (税抜き1.75%)**の率を乗じた額です。
* 消費税率が10%となった場合は年1.925%となります。
- その他の費用・手数料
上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。
- ※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	<p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>ホームページ： https://www.smd-am.co.jp フリーダイヤル： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）</p>
受託会社	<p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>株式会社りそな銀行</p>
販売会社	<p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p>
投資顧問会社	<p>マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。</p> <p>アリアンツ・グローバル・インベスターズU.S.LLC</p>

「グローバルA I ファンド（為替ヘッジあり）」は、2019年2月1日に発表された「モーニングスターアワード・ファンド オブ ザ イヤー 2018」において、優秀ファンド賞（国際株式型（グローバル・含む日本）部門）を受賞いたしました。当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2018年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際株式型（グローバル・含む日本）部門は、2018年12月末において当該部門に属するファンド340本の中から選考されました。Morningstar Award™ Fund of the Year 2018™は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

販売会社（2019年9月17日現在）

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会 一般社団法人	一般社団法人 投資信託協会	備考
今村証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号	○					
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		
株式会社 S B I証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第52号	○		○	○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長（金商）第3号	○					
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○			○		※1
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2938号	○					※1
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第43号	○					
G M Oクリック証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第77号	○	○		○		
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第10号	○					
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長（金商）第37号	○					
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第99号	○					
大熊本証券株式会社	金融商品取引業者 九州財務局長（金商）第1号	○					
第四証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第128号	○					※2
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○		○		
とほづ証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長（金商）第36号	○					
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号	○	○				
西日本シティ T 証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	○					
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○		
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○		○			
浜銀 T T 証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○					
百五証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第134号	○					
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第20号	○					
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第152号	○					
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長（金商）第1号	○					
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○		○	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○		○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第199号	○					
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社愛知銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第12号	○					

備考欄について

※1：「グローバルAIファンド」のみのお取扱となります。※2：2019年10月1日より「第四北越証券株式会社」に商号変更を予定しております。

販売会社（2019年9月17日現在）

販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 日本投資顧問業協会	金融先物取引業協会 一般社団法人	一般社団法人 投資信託協会	備考
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第43号	○			○		
株式会社阿波銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第1号	○					
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○					
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第8号	○					
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第56号	○					
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○			○		※1
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第7号	○			○		※1
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第578号	○	○		○		※1
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第61号	○					
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第17号	○					
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第2号	○			○		
株式会社筑波銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第44号	○					
株式会社東京スター銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第579号	○			○		
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第7号	○					※1
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○					※1
株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第11号	○					
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第1号	○					
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○					
株式会社名古屋銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第19号	○					※1
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第15号	○					
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第6号	○			○		
株式会社東日本銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第52号	○					
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第10号	○			○		
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第5号	○			○		
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第5号	○			○		※3
株式会社福岡中央銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第14号	○					※1
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○		
株式会社北洋銀行（仲介）	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○		※4
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第3号	○			○		※1
株式会社三重銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第11号	○					※1
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第22号	○			○		※1
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第38号	○					
株式会社山形銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第12号	○					※1

備考欄について

※1：「グローバルAIファンド」のみのお取扱となります。※3：ネット専用※4：委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社

販売会社（2019年9月17日現在）

販売会社名	登録番号	登録機関	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
朝日信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第143号	○					※1
足立成和信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第144号						※1
遠州信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第28号						※1
青梅信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第148号	○					※1
大垣西濃信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第29号						※1
大田原信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第219号						※1
大牟田柳川信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第20号						※1
川崎信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第190号	○					※1
北伊勢上野信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第34号						※1
京都中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第53号	○					※1
京都北都信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第54号						※1
呉信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第25号						※1
甲府信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第215号						※1
さわやか信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第173号	○					※1
しのめ信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第232号						※1
芝信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第158号						※1
城北信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第147号	○					※1
新庄信用金庫	登録金融機関	東北財務局長（登金）第37号						※1
瀬戸信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第46号	○					※1
但馬信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第67号						※1
知多信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第48号						※1
栃木信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第224号						※1
鳥取信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第35号						※1
奈良信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第71号	○					※1
西尾信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第58号						※1
西中国信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第29号						※1
浜松磐田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第61号						※1
半田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第62号						※1
飯能信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第203号						※1
姫路信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第80号	○					※1
兵庫信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第81号	○					※1
福井信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第32号						※1
福岡ひびき信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第24号	○					※1
碧海信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第66号	○					※1

備考欄について

※1：「グローバルAIファンド」のみのお取扱いとなります。

重要な注意事項

■当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。■投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。■当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。■当資料に評価機関等の評価が掲載される場合、当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2019年9月25日

